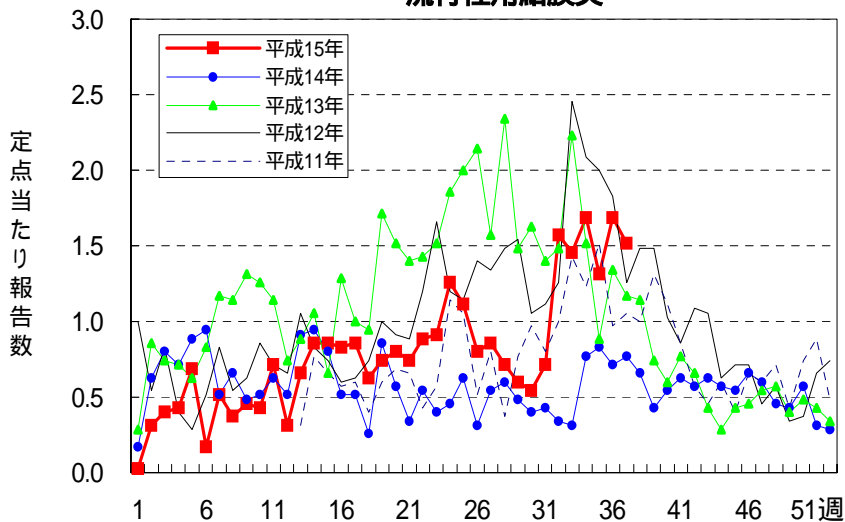


### 流行性角結膜炎



疾患名	前週	今週	備考
<u>流行性角結膜炎</u>	1.7 ▲	1.5 ▼	眼結膜・角膜の炎症を主症状とするアデノウイルス感染症 (重症例では視力障害を残す)
<u>手足口病</u>	1.3 ▲	1.2 ▼	夏かぜウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染。口の中、手や足の先の水疱性発疹
<u>ヘルパンギーナ</u>	0.7 ▼	0.6 ▼	夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍
<u>咽頭結膜熱</u>	0.25 ▲	0.24 ▼	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症
<u>マイコプラズマ肺炎</u>	0.38 ▶	0.54 ▲	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 4 定点からコメントでの患者発生報告あり

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
▼ 減少	▶ 横ばい	▲ 増加

感染症についての説明及びグラフ総覧については、  
愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

( <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/> )

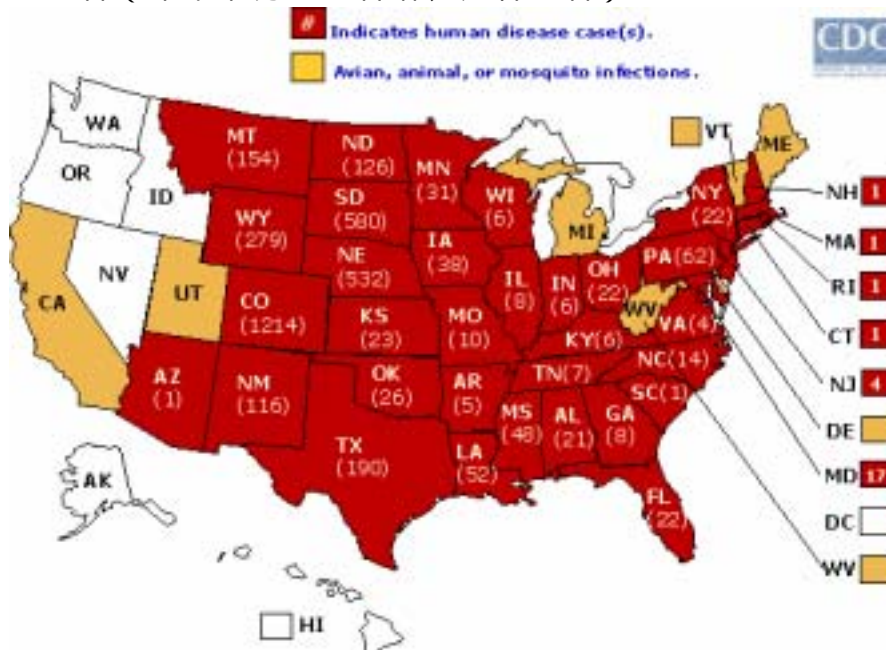
## トピックス

### 米国におけるウエストナイル熱の流行と我が国での対策（第2報）

【平成15年9月17日現在】

愛知県感染症情報・第33週（8月11日～8月17日）のトピックス（8月20日時点）でお伝えしましたが、昨年アメリカ合衆国で大流行（4,156人の感染者と284人の死者）したウエストナイル熱（脳炎）がこの夏も昨年を越す勢いで流行しています。8月20日以降、アメリカ国内での感染者は増加の一途をたどり、合衆国における現時点（9月16日現在）での感染者数は3,659名（8月20日時点では、715名）と、昨年同時期（1,500名程度）の倍以上となっています。昨年は、8月末の感染者数が500名程度であったものが、9月末には2,500名程度に、10月末には3,500名程度までに流行が拡大したことから、今年も同様なペースで流行が拡大すると仮定すると、今年は昨年以上の大流行が起こることが確実になりつつあります。

また、2002年にはウイルスに感染したトリの東部諸州からの移動に伴い、五大湖周辺のイリノイ州、ミシガン州、オハイオ州やインディアナ州で多数の患者発生が報告されました。今年は、五大湖周辺の州からの感染者の報告数は激減していますが、昨年までは感染者が全く報告されていなかったニューメキシコ州を含め西部の州からの現時点での各州別報告数が昨年末の各州別報告数と比較して、100名～1,000名以上増加しています。そのうち感染者が多数報告されているのは9月16日現在コロラド州が最多で1,214名（昨年末比1,200名増、死者19名）、次いでサウスダコタ州の580名（昨年末比543名増、死者7名）、ネブラスカ州の532名（昨年末比380名増、死者10名）、ワイオミング州の279名（昨年末比277名増、死者6名）、テキサス州の190名（昨年末比12名減、死者6名）、モンタナ州の154名（昨年末比152名増、死者1名）、ノースダコタ州の126名（昨年末比109名増、死者ゼロ）、ニューメキシコ州の116名（昨年末比116名増、死者4名）などとなっています。



一方、日本からの観光客が多いカリフォルニア州内でのヒトへの感染は今のところ報告されていません。しかしながら、第 33 週のトピックス掲載時点（8 月 20 日）では報告されていなかったトリなどの動物への感染がその後報告されたことから、現地専門家はカリフォルニア州でヒトのウエストナイル熱（脳炎）発生も時間の問題との見解を述べています。いずれにしても蚊に刺されないように注意することが必要です。

## ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎）について

### 1 症状など

- ・ **不顕性感染**：多く（80%程度）は感染しても症状が出ない。
- ・ **通常型**：潜伏期 3～15 日程度  
急激な発熱、頭痛、背部痛、めまい、発汗、約半数の症例で出現するとされる紅い小丘疹が密生した猩紅熱様発疹（米国の患者では、約 20%程度に認められる）、リンパ腫大など  
3～7 日で解熱し、短期間で回復
- ・ **脳炎型**：感染を受けた人の 1%未満  
重い症状が出現（頭痛、高熱、頸部硬直、感覚障害、昏睡、戦慄、麻痺など）  
高齢者や免疫機能の低下した人に多く、死亡率は 3～15%

### 2 感染経路

- ・ ウイルスに感染したカラスなどの鳥や馬などを刺してウイルスを含む血液を吸血した蚊に刺されることによって感染
- ・ ウイルスに感染したヒトからヒトへの感染については、ヒトの末梢血にはウイルスが大量に出現することが少ないことから起こりにくいと考えられている。

## 我が国での対策

我が国では私たちの身の周りにはほとんどの蚊が（14 種類ほどの蚊のうち、ヒト及びトリの両方を刺す性質を持つ 11 種類）ウエストナイルウイルスを媒介する可能性があるとの厚生労働科学研究報告がなされ、我が国でウエストナイル熱（脳炎）が流行する可能性も指摘されています。

これらの蚊に対する対策として、6 月 18 日付けでウエストナイル熱の侵入に備えた地域における対策をまとめた厚生労働科学研究の結果が報告されました。その中で、媒介蚊を可能な限り減らすための対策として、主に以下のことを提言しています。

幼虫発生源の水溜まり等を無くすこと

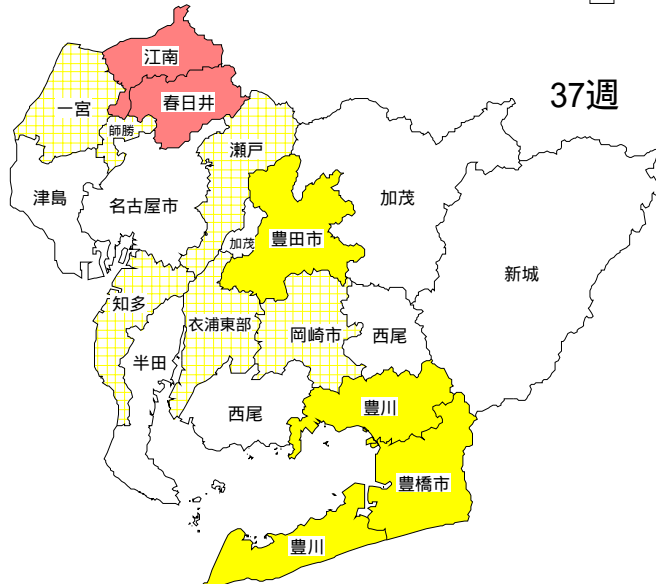
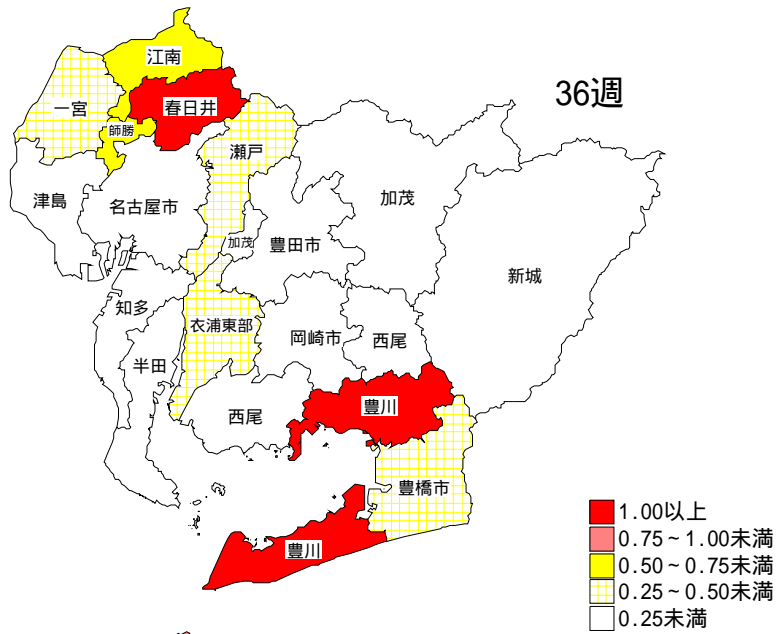
殺虫剤を用いて蚊を殺すこと

網戸の設置や、屋外では皮膚に忌避剤を塗ること

また、昨年北米におけるウエストナイル熱の大流行を受け、我が国では昨年 10 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」の施行規則の一部改正がなされ、ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む）は 4 類感染症に指定され、診断した医師は都道府県知事に届け出なければならないことになりました。また、流行予測のために死亡カラス情報の収集も昨年 12 月から実施されています。

当衛生研究所でも、昨年度に全国の地方衛生研究所と国立感染症研究所（感染研）が連携して立ち上げたウエストナイルウイルスの遺伝子の検査体制に加え、感染研がアメリカ合衆国 CDC（米国疾病対策センター）から提供を受けた患者血清の一部の提供と同時に検査法の研修も受け、現在、血清学的検査法についてもその検査体制を整えつつあります。

## 咽頭結膜熱の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)

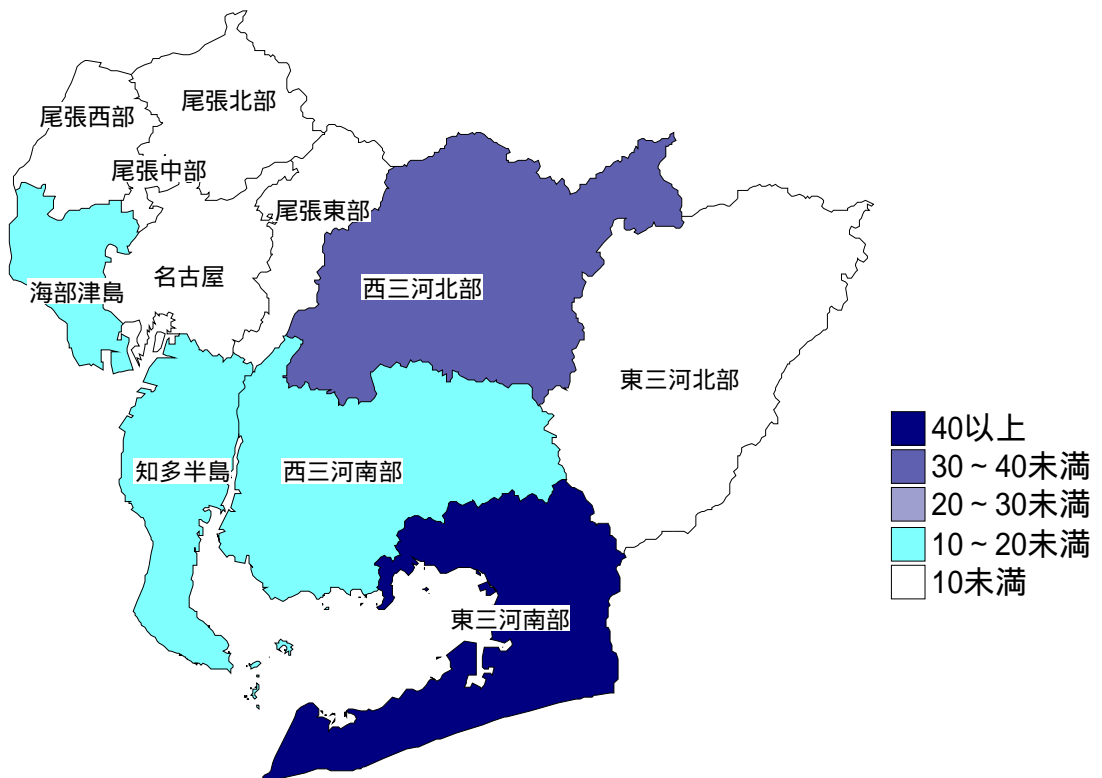


	37週	定点 当たり	36週	定点 当たり		37週	定点 当たり	36週	定点 当たり
名古屋市	3	0.04	4	0.06	岡崎市	2	0.29	0	0.00
瀬戸	3	0.33	4	0.44	衣浦東部	4	0.36	4	0.36
津島	0	0.00	1	0.14	西尾	1	0.20	0	0.00
師勝	1	0.25	2	0.50	豊田市	4	0.50	1	0.13
一宮	3	0.25	3	0.25	加茂	0	0.00	0	0.00
春日井	7	0.78	9	1.00	豊橋市	4	0.50	3	0.38
江南	5	0.83	4	0.67	豊川	5	0.63	9	1.13
半田	0	0.00	1	0.17	新城	0	0.00	0	0.00
知多	2	0.29	1	0.14					

は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる咽頭結膜熱の流行発生警報は保健所(市)定点当たり1.0人を越えた場合に発生し、0.1人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

## マイコプラズマ肺炎の医療圏別報告数(名古屋市含む)



\* 報告数は平成 15 年第 1 週から第 37 週までの累計です。

### 医療圏別基幹定点数と報告数

医療圏名	圏内保健所等	基幹 定点数	報告数
名古屋	名古屋市	1	4
尾張東部	瀬戸保健所	1	0
海部津島	津島保健所	1	12
尾張中部・西部	師勝・一宮保健所	1	0
尾張北部	春日井・江南保健所	1	1
知多半島	半田・知多保健所	1	11
西三河南部	岡崎市・衣浦東部・西尾保健所	3	18
西三河北部	豊田市・加茂保健所	1	35
東三河南部	豊橋市・豊川保健所	2	68
東三河北部	新城保健所	1	0
計		13	149

## 定点の先生方からのコメント

### 尾張西部地区

病原性大腸菌O1 2歳女、3歳男、10歳女  
病原性大腸菌O6 7歳女  
病原性大腸菌O18 3歳女  
病原性大腸菌O153 2歳男  
カンピロバクター 13歳女  
黄色ブドウ球菌 2歳女

【尾西市 城後小児科】

6歳女 アデノウイルス感染 抗体上昇で確認

2歳男 アデノチェック陽性(チェックAd<sup>\*1</sup>) いづれも病状は咽頭結膜熱

【一宮市 後藤小児科医院】

\*1 チェックAd:アデノウイルス検出キット

幼児(保育園児)に爆発的とも言える流行性角結膜炎(咽頭結膜熱を含む)の発症が駅西地区にみられます。要嚴重注意と思います。

【一宮市 ふなはし眼科】

水痘多いです(3歳男ワクチン歴あり2名、4歳女ワクチン歴あり)。

感染性腸炎 6歳男(カンピロバクター)

【一宮市 あさのこどもクリニック】

エロモナス・キャピエ<sup>\*2</sup> 1歳男

【犬山市 武内医院】

\*2 エロモナス・キャピエ:下痢を起こす原因菌のひとつ  
まだ手足口病がつづいています。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

5歳男 マイコプラズマ肺炎

【春日町 丹羽医院】

マイコプラズマ肺炎 2名(7歳・9歳)ありました。

【立田村 医療法人谷本医院】

### 尾張東部地区

流行性耳下腺炎が多いくらいです。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

流行性耳下腺炎小流行が続いています。

ヘルパンギーナもまだ少し認めます。

8歳女 咽頭結膜熱(アデノチェックにて陽性)

アデノウイルス感染症が数例みられました。

マイコプラズマ感染症多くみられます。

その他突発疹、溶連菌感染症、伝染性紅斑

【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】

---

1歳2ヵ月 病原性大腸菌O111 VT1(-)、VT2(-)

【尾張旭市 旭労災病院】

8歳男、11歳男、13歳男共に黄色ブ菌(ラクタマーゼ(-))、カンピロバクター 混合感染性腸炎

60歳女 カンピロバクター感染性腸炎

【豊明市 豊明団地診療所】

手足口病と溶連菌感染症が少々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

今週は感染症も少なく咽頭結膜熱 3歳男 1名みられました。

【春日井市 かちがわ北病院】

水痘、ヘルパンギーナある。

全体に感染症少い。

【小牧市 小牧市民病院】

手足口病、ムンプス流行中

サルモネラ(+)

【大府市 まえはらこどもクリニック】

---

## 西三河地区

---

3歳女 イムノカードSTアデノウイルス\*3(+)

8歳女 病原大腸菌O126、サルモネラ菌

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

\*3 イムノカードSTアデノウイルス：アデノウイルス抗原検出用キット

10ヵ月男 病原大腸菌O112

2歳女 サルモネラO9腸炎

【豊田市 すくすくこどもクリニック】

10歳男 病原性大腸菌O124 VT(-)、カンピロバクター

10ヵ月男 病原性大腸菌O18 VT(-)

12歳女 サルモネラO9

【岡崎市 にいのみ小児科】

1歳男 病原性大腸菌O1

4歳男 病原性大腸菌O18

1歳女 サルモネラO9

8歳女 マイコプラズマ肺炎

10歳男 カンピロバクター

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

6歳男 カンピロバクター

1歳女、3歳女 滲出性扁桃炎 チェックAd(+)

【幸田町 とみた小児科】

16歳女 病原性大腸菌O18 VT(-)、カンピロバクター

【西尾市 やすい小児科】

## 東三河地区

1歳女 サルモネラO9 2名

4歳男 病原性大腸菌O18 疑い

6歳男、7歳女カンピロバクター

手足口病が再び流行してきました。6月頃罹患した子が9月にも再びなる。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

マイコプラズマ肺炎2名 とともに4歳女

アデノウイルス扁桃炎姉弟例（9歳女、3歳男） チェックAd（+）

【豊橋市 野村小児科】

麻疹1歳女児は豊橋在住の子です。麻疹IgM（+）

サルモネラ腸炎3名（O4:2名 O9:1名）

【蒲郡市 蒲郡市民病院】

水痘は散発例にて感染源が不明

手足口病は一部の保育園にて流行するも広がる傾向はなさそうです。

【田原市 かわせ小児科】

## 1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

### 腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	豊田市	23	男	9/1	9/2	9/6	O157 VT2(+)	
2	豊橋市	11	男	9/2	9/3	9/8	O26 VT1(+)	

## 全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

後天性免疫不全症候群1例（無症候性キャリア）：推定感染地域不明

梅毒1例（無症候性）



愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

まだ暑い日が続いていますが、もう秋。駅のポスタ - は秋一色、遠足や修学旅行の生徒達でプラットフォームがこぼれそうになったりしています。いつも貴重な情報を有難うございます。8月後半 / 9月前半のまとめをお送りします。

- 1) **名古屋市**内：名鉄病院福田先生からはヘルパンギ - ナと手足口病が比較的多いが減少傾向で水痘散発、重症の咽頭炎・扁桃炎と無菌性髄膜炎が比較的多いが入院を要する感染症は全般的に少なくなった、第一日赤松山先生からは水痘散発、感染性胃腸炎の入院 1 例、第二日赤岩佐先生からは手足口病減少、肺炎・気管支炎が少し多くなった、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎 1 例、手足口病 2 名で患児少ない、三菱病院入山先生からは感染性腸炎 2 例（カンピロバクタ - + 病原性大腸菌 O143 が 1 例、カンピロバクタ - 1 例）、伝染性紅斑 1 例、突発疹 2 例、マイコを含む肺炎の入院 5 - 6 例、扁桃炎の入院数例、中京病院柴田先生からは特に目立つ感染症はない、労災病院山田先生からは病原性大腸菌 O1 とカンピロバクタ - 腸炎が目立ちムンプス、水痘、伝染性膿痂疹が目立ち、ヘルパンギ - ナ散発、マイコプラズマ肺炎多発中で兄弟例が目立つ、大同病院水野先生からは流行という程の感染症はないが、ウイルス性腸炎（下痢が長びくが脱水は少ない）、マイコプラズマ感染症（肺炎・気管支炎が多い）が比較的目立つとのお手紙でした。
- 2) **尾張地区**：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎（サルモネラ腸炎 1 例、カンピロバクタ - 腸炎 2 例）が散発、水痘も散発中、江南市昭和病院小児科からは目立つものはない、常滑上田先生からはムンプス、突発疹、ヘルペス口内炎、細菌性腸炎（サルモネラ、カンピロバクタ - ）、ヘルパンギ - ナが目立つとのお手紙でした。
- 3) **三河地区**：トヨタ病院木戸先生からは喘息が少し多くなった、加茂病院梶田先生からはアデノウイルス感染症（扁桃炎で要入院例多い）、手足口病目立つ、年長児のマイコプラズマ肺炎目立つ、岡崎市民病院小児科からはムンプス散発、溶連菌感染症散発、知立市近藤先生からは手足口病とヘルパンギ - ナがやや多く溶連菌感染症散発、刈谷市田和先生からは手足口病と水痘、感染性胃腸炎がたまに来院、碧南市永井先生からは手足口病がまだ時々いる、豊橋市からは水痘、手足口病、熱の続くアデノウイルス咽頭炎などが散発中（長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

## 2003年8月15日(78巻33号)

**エボラ出血熱**：コンゴ共和国。2002年12月上旬、コンゴ共和国・ンボモ地区、ケレ地区でヒト以外の霊長類（ゴリラ、チンパンジ）の大量の死亡が住民や地域の助産婦から報告され、死因としてエボラウイルスが同定された。これら猿類の食肉でエボラウイルスの流行がヒトに発生するのを阻止するため政府担当者とWHO専門家による調査団が03年1月に現地へ派遣された。その結果、10例の死亡が地区保健担当者からWHOに報告されており、3週間の集団発生、同一家族で高熱、血便、嘔吐など症状もエボラ出血熱と一致していた。2月上旬に現地担当者とWHO・国際チームの疫学調査とウイルス材料収集の専門家派遣、対策として流行を阻止するための社会活動、教育、患者の隔離（隔離が拒否された場合には在宅治療の注意）、遺体の取扱いの注意、サーベイランス（結果のまとめ：02年12月25日～03年4月22日に143例発病、13例がウイルス検査で確定。初発例はゴリラの死体と接触あり。殆どの続発例は家族内接触者で医療関係者は3例。患者死亡率は89%、死亡は平均発病後7日、男女差なく、年齢は生後5日～80歳で28例が15歳以下。院内感染は重要な役割ではなかった。初発発病後44日目の03年6月5日、コンゴ政府は流行の終息を宣言した。

**インフルエンザウイルス中和抗体測定法**：03年3月18-19日、ドイツ・ドレスデンにおける専門家会議。インフルエンザの免疫に直接関係する中和抗体測定法の標準化。現在主に犬腎臓かヒト胎児由来の細胞培養を用いて測定されている。今後さらに感度を良好にすることと、世界的に抗体測定法として採用されている赤血球凝集抑制反応との関連などが討論された。

**髄膜炎菌髄膜炎**：総説。伝播経路：ヒトからヒト。飛沫感染。検査：髄液か血液の培養。血清型や薬剤耐性検査。治療：ペニシリン系、クロラムフェニコール、セフェム系抗生剤。アフリカ地区では持続性がある油性クロラムフェニコールの1回注射。発生状況：小規模発生は世界的。流行地・常在地はサハラ砂漠南縁諸国（髄膜炎ベルト）。例えば02年ブルキナ・ファソで13,000名罹患、死亡1,500例。アフリカの常在国からイスラム教の巡礼者が巡礼シーズンにメッカに持込み世界に広がる原因となっている（サウジ・アラビアは髄膜炎菌ワクチン接種を入国者に義務づけている）。予防：ワクチン接種（注：本邦では入手できない）。

8月8日-14日届出。コレラ：ブルキナ・ファソ、コンゴ、ガナ、ギニア、リベリア、米合衆国、中国、香港、インド、シンガポール。ペスト：モンゴル。黄熱：ペルー、ボリビア、ブラジル、コロンビア、ベネズエラ。

03年8月22日(78巻34号)

**各種感染症情報** コレラ。リベリア：03年8月13日、WHO専門家が首都モンロビアで調査。昨年から雨期を中心に多発。現在までに1,944例(死亡17)の報告があるが内戦激化で情報収集は極めて困難。安全な水供給が急務。

レジオネラ症。フランス：03年8月13日、モンペリエ保健担当者は30例(死亡3例)の発生を報告。感染源は給水塔の水が培養陽性。現在滅菌など対策を検討中。黄熱。シエラレオネ：03年8月19日、46例(確定1例)の発病が報告された。発生地区の疫学調査、ワクチン在庫の確保と緊急接種を実施中。

**SARS**：03年6月17日-18日、クアラ・ルンプールで43カ国、900名の専門家による国際会議が開かれた。課題：SARSは根絶可能か？ 現在の予防法は有効であるか？ 現在の情報網と対応システムは適切か？ 今後の国際協力の重要性強調。

**インフルエンザ**：03年7-8月。アルゼンチン、オーストラリア、チリ、マダガスカル、ペルー、ニューカレドニア、ニュージーランド：いずれもA型。南アフリカ：A型とB型。

8月15日-21日届出。コレラ：ウガンダ、インド。黄熱：シエラレオネ。

## 第 35 週(15 年 8 月 25 日～8 月 31 日)の 4 類感染症 (全国)

### 小児科定点報告疾患

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第 29 週をピークとし、その後は減少し続けているが、過去 10 年間の当該週と比較して第 16 週以降最高の値となっている。過去 5 年間の同時期（前週、当該週、後週）と比較しても未だかなり多く、都道府県別では長野県（1.5）、滋賀県（1.5）、高知県（1.2）が多い。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第 24 週から 10 週間連続して減少した後、前週は増加したが、今週は再び微減した。過去 10 年間の当該週と比較して第 27 週以降最高の値で推移しており、過去 5 年間の同時期と比較してもやや多い。都道府県別では鳥取県（1.2）、富山県（1.0）、山形県（0.9）、山口県（0.9）が多い。手足口病の定点当たり報告数は第 29 週をピークとし、その後 5 週間連続して減少し続けたが、今週は再び微増した。

過去 5 年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では青森県（5.6）、山口県（4.6）、岩手県（4.5）、新潟県（4.5）が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は第 29 週をピークとし、その後は減少し続けているが、過去 5 年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では新潟県（4.6）、宮崎県（4.4）、愛媛県（4.3）が多い。

### 基幹定点報告疾患

無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は減少して 0.10 で、都道府県別では奈良県（0.8）、石川県（0.6）が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は微増して 0.23 で、本年は過去 4 年間の報告数に比し高く推移してきたが、第 31 週以降は昨年、一昨年と大差のない値となっている。都道府県別では大阪府（1.1）、山形県（0.7）、茨城県（0.7）が多い。

（Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センタ - 感染症情報室提供）

詳細は感染症情報センタ - のホームページ（<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>）の感染症発生動向調査週報をご覧ください。







愛知県感染症情報

2003年第1週～第37週(平成14年12月30日～平成15年9月14日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹	
計	38,580	1,018	5,054	18,624	9,229	8,716	1,252	3,956	41	36	4,489	124	3,421	26	736	1	5	9	145	0	4	
～6ヶ月	518	6	11	212	240	72	7	333	6		66	2	2		3							
～12ヶ月	1,096	36	26	1,185	563	419	45	2,380	10	2	417	24	19		13							
0歳																	1		2			
1歳	3,227	159	125	2,844	1,649	1,585	66	1,148	8	5	1,118	30	165		22				13			
2歳	3,245	163	291	2,125	1,562	1,539	111	74	3	2	851	9	274	1	19				13			
3歳	3,321	160	625	2,088	1,713	1,667	140	8	3	1	805	6	525	2	22				15			
4歳	3,516	146	949	1,833	1,626	1,442	184	1	4	3	528	8	672		19				11			
5歳	2,262	131	963	1,430	986	952	197	2	2	5	367	5	660	1	25							
6歳	1,825	74	729	1,057	409	446	170	4			144	7	404		5							
7歳	1,466	46	418	832	166	198	98	1	1	4	69	3	229		8							
8歳	1,304	38	287	671	109	131	96	3	1	3	30	3	161	1	8							
9歳	1,336	17	164	515	59	64	42			1	34	2	89		5							
5歳～9歳																		2	33			
10歳～14歳	4,859	18	223	1,233	93	90	68	2	2	3	26	16	140	1	30				23			
15歳～19歳	1,573	3	20	333	9	7	1				7	3	12		28			1	4			
20歳～		21	223	2,266	45	104	27		1	7	27	6	69			1	4					
20歳～29歳	2,768													10	121			3	10			2
30歳～39歳	3,054													1	147			1	9			1
40歳～49歳	1,182													2	72			2	5			1
50歳～59歳	892													3	94				1			
60歳～69歳	597													1	54				2			
70歳～														3	41							
70歳～79歳	352																		3			
80歳以上	187																		1			